

教員活動状況報告書

提出日：令和 4 年 3 月 7 日
 所 属：生命・環境科学部 食品生命科学科
 氏 名： 澤野祥子 職位： 准教授
 役 職： なし

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

（教育活動について何をやっているのか：役職担当・主要担当科目リスト（必修，選択）（受講者数）（学部向け，大学院向け）（學理データ活用）

教師として何に責任を負っているかを明確にし，自分が担当している授業科目に関して数行で説明する。（分量の目安：2～5行（80字～200字）（科目表以外））

※分量（字数）はあくまで目安ですので，超えても構いません。内容を優先して下さい。（以下同じ）

主に、食品の機能分野の科目を担当している。カリキュラムツリーの流れの中で、学生に専門知識を着実に定着させることを意識して授業を行っている。実習科目については、実験手技の向上はもちろんのこと、レポート・プレゼンテーションなどの発信力も磨けるようなシラバス作成と授業運営を心掛けている。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
食物アレルギー論	食品生命科学科	選	3年次	76名
食品分析学	食品生命科学科	必	2年次	62名
応用栄養学	食品生命科学科	選	3年次	77名
基礎化学実習	食品生命科学科	必	1年次	58名
食品学実習	食品生命科学科	必	2年次	64名
卒業論文	食品生命科学科	選	3,4年次	14名
科学者・研究者論	環境保健科学専攻	必	1年次	20名

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

1. で説明した教育面での責任を基にしながら自分の教育理念に基づいて自分の教育アプローチについてまとめる。（自分の教育アプローチの説明：なぜやっているのか，自らの信念，価値，目指すもの）（分量の目安：8～12行（320字～480字））

食品関連の知識を不足なく学生に定着させることを念頭に置いて教育業務を行っている。例えば他大学にも自身の担当科目に該当するような履修科目があると思われるが、本学を

卒業した学生も、他大学を卒業した学生と比べて遜色ない知識を得られるよう教育内容を充実させるよう心掛けている。そのため、カリキュラムにのっとって必要な知識を楽しんで身につけさせられるような教授法を工夫している。加えて、「分かる」ことは学びの楽しさの根源だという思いもあるため、「分かりやすさ」に重きを置いて、勉強の楽しさを学生に体感してもらえることを目指している。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

教育の目的と目標（これまでの教育経験においていつも行っていること。重要視していること。自分の教育を特徴づける方法）（分量の目安：15～24行（600字～960字））

教育の理念とも重なるが、大学で学ぶ学生にとって必要な知識、技術など、食品分野の素養を植え付けることを重要視している。卒業してから食品分野に進んで働く学生はもちろんのこと、食品分野に進まない学生にとっても「食」は生きる上では欠かせないものであるため、大学での学びがそれぞれの学生の血となり肉となって卒業しても頭の片隅に残っており、学んだことを活かしてくれれば本望である。

アクティブラーニングについての取組

座学については、14回の中で必ず1回以上はグループワークの時間をとるようにしている。既に習った単元の復習を兼ねて行っているが、他のメンバーとの知識の差が如実に表れるので、それぞれの学生にとって良い刺激になると考えている。また、授業が一方通行にならないよう、授業の後半では該当回の内容を振り返る確認問題を解く時間を設け、答え合わせと解説を毎回実施している。その問題は次の週に、小テストとして出題し、スモールステップで知識の確認と蓄積ができるよう工夫をしている。

実習については、実験結果をレポートで提出するだけでなく、スライド課題も課している。実験は手を動かすことも大事だが、それと同等にデータを正確に整理して結果を示し、結果から考えられることを導き出す能力が必要だと考える。また、それを他人に発信する力も同様に重要だと考えている。したがって、実験以外のレポート作成やスライドプレゼンテーション作成も手厚く授業の中でフォローするように意識している。

ICTの教育への活用

積極的に、學理やGoogleドライブなどのツールを活用し、授業を実施している。2021年度は対面授業もできるようになったが、学生にとって有益な教材を提供するため、実習の動画撮影・編集などの動画制作も引き続き実施している。今後もICT教育の有用なところは残しながら授業運営をしていきたい。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）（分量の目安：15～24行（600字～960字））

現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

(①から⑤まで個別に記載又は①から⑤までまとめて記載ください)

60名規模の授業が主なため、日頃の授業では全体への授業教授や声掛けが中心となり、個々の学生とのコミュニケーションを十分に取れていないと感じる。以前、プリント形式で小テストを行っていた際には、小テストの最後にコメント欄を設けて、学生が自由に質問や意見を記載できるようにして双方向性を担保していた。しかしながら、実施してみた結果、授業と全く関係のない不適切なことを書いてくる学生が出てきたためこのやり方は中止した。オンライン実施になって以降、メールなどの媒体で質問をしてくる学生が若干出てきたが、学生にとって、メールあるいは直接質問をしやすい雰囲気を作る必要があると考えている。自学自習については、大体の授業で小テストを毎回課しているため、自宅や授業前の復習がしやすい状況になっているようだ。

①教育（授業，実習）の創意工夫（A～C） B

②学生の理解度の把握（A～C） B

③学生の自学自習を促すための工夫（A～C） B

④学生とのコミュニケーション（質問への対応等）（A～C） B

⑤双方向授業への工夫（A～C） B

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V 学科，M 学科の教員の方のみ記載してください。）

5. 学生授業評価（分量の目安：4～7行（160字～280字））

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

授業評価で好評だった点は続け、不評だった点は改善を試みている。例えば「分かりやすい」というコメントについては「十分理解できている」と捉え、単元の難易度を据え置いている。授業評価アンケート収集の際にコメント欄に、分かりやすかった単元と分かりにくかった単元を具体的に書くようお願いしているため、難しいと感じたところについては、次年度に難易度を落としたり、長く説明したりなど、反映させている。実習についても、興味深いと感じる学生が多かった実習とそうでない実習をアンケートで回収し、進め方の改善点などが具体的にあれば、次年度のシラバスや実習で反映できるものは反映させている。

② ①の結果はどうでしたか。

実習の進め方や事前学習、事後学習について、教員-学生間の齟齬が少なくなり、年々評価が相対的に上がってきており、満足度の高いコメントが多く得られるようになってきていると感じる。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組めますか。

学生に好評だった点をさらに意識して、次年度の授業に活かしていきたい。改善点についても、変えられるものについてはすぐに改善したい。

6.学生の学修成果（分量の目安：4～7行（160字～280字））

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

（参考となる取組については、学内で共有させていただく予定です。）

授業の終わりに、学習した内容のまとめ問題を解いてもらい、模範解答を解説することで、その日の授業のダイジェストを簡単に行う。翌週の授業の始めに、前週行ったまとめ問題と同じ問題を用いて、小テストを行う。毎週少しずつ覚えていくので、記憶の定着が図れる。また、小テストの採点は教員自身が行うため、どこでどのくらい理解できているかの把握ができ、間違いが多かった問題については、詳しく解説するなどの対応ができる。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

「分かりやすかった」、「ためになった」などの学生の声を得ている。

7. 指導力向上のための取組（FD研究会参加状況）（分量の目安：1～2行（40字～80字））

可能な限りFD研究会には参加するようにしている。予定がある、もしくは遅い時間帯に実施されるFD研究会については、オンタイムで参加できないものの、後で映像を見て参加することで補填している。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。（分量の目安：3～6行（120字～240字））

短期的な目標：授業担当科目を履修している学生の顔と名前を全て一致させることから取り組んでいく。

長期的な目標：必要に応じて学生に個別に声掛けをすることで、授業あるいは研究活動のやる気を引き出し持続させる。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

※資料については非公開扱いのものもありますので、資料名のみを記載してください。

- FD 研修事後課題（ピアレビューによるブラッシュアップ）の実施

有・無

 該当を○で囲む
- 下線部以外は今回新規追加した事項を示す。

参考

※ ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

（「実践ティーチング・ポートフォリオ スタータブック」（大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会 編）から引用）

（自ら作成するもの）

1. 授業に関するもの

シラバス，小テスト，宿題，レポート課題，試験問題，教材（配布資料，パワーポイント資料など）

2. 教育改善に関するもの

（教育に直接貢献する研究，FD プログラムなどへの参加記録，教育の工夫を示すもの（複数年のシラバス等），教育活動関連の補助金の獲得

（他者から提供されるもの）

1. 学生から

授業評価データ，授業に関するコメント（授業評価の自由記述やメールのやりとり等），卒業生から授業や教育についてのコメント

2. 同僚から

授業参観の講評，作成教材についての意見，同僚のサポート実績

3. 大学／学会等から

教育に関する表彰，教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類，カリキュラムやコースの設計などについての評価

（教育/学習の成果）

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化，学生の小論文・報告書，学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例，特に優秀な学生についての記録，指導学生の学会発表などの成果，学生の進路選択への影響についての事実，学生のレポートの改善の軌跡